

2022年度 ブロック長意見交換会

1. 日 時 : 2022年9月11日(日) 13:00~14:45

2. 場 所 : 大阪市北区豊崎3-20-1 インターグループビル会議室 ZoomにてWeb会議

3. 出席者

(1) 本人出席者 23名

大橋健(代表理事)、水野勝教(専務理事)、今井俊二(理事・沖縄)、島谷太(理事・阪神)、中島晃芳(理事)、野村泰朗(理事)、勝村航太(理事)、森重智年(理事)、政岡恵太郎(理事)、田中宏明(監事)、高橋忠(東北)、富永一利(関東)、玉水亘(埼玉)、設楽信二(茨城)、川上誠(静岡)、山田吉孝(東海)、宮崎倫明(岐阜)、出村公成(石川)、西田好光(関西)、吉本光希(京滋奈)、澤山博幸(岡山)、樋川直人(四国)、山村宏仁(九州代理)

(2) 欠席者 9名 松山森仁(理事)、松本紗映(北海道)、山田巧(群馬)、瀬谷知之(福島・栃木)、吉楽雅典(北信越)、玉島琢巳(兵庫)、井関暁洋(中丹・南丹)、山野真一(広島)、村川立美(島根)

(3) その他出席者 梅田寛康(オンステージ技術委員長)、浅沼まり(事務局)、休場万喜(事務局)

4. テーマ

1. けいはんな大会の総括
 - ・総括
 - ・収支報告
 - ・データ集計
2. 2023名古屋大会について
3. 名古屋大会以降の会場について
4. その他

5. 資 料

- 資料1. 開催報告書
資料2-1. ノード毎のエントリーチーム数
資料2-2. 参加者アンケート

6. 意見交換会概要

(1)けいはんな大会総括

①政岡理事より、大会参加チーム数、受付業務、採点ミス(サッカー)、コロナ対策等について報告がなされた。

②島谷理事より、大会の収支報告について、参加数、スポンサーの獲得、会場費や設営費の削減、スタッフ人件費カット等の大幅な経費削減ができ、赤字は回避することができた。例年の大会と異なりRCJJ単独での大会開催となったため、大会単体の収支報告は行わず、年度末の本会計に含めた形で総会にて収支を報告するとの説明がなされた。

③大橋代表理事より、資料1に基づき、参加者アンケートの紹介がなされ、大会運営全般について意見を求めた。

・東海ブロック長・山田吉孝氏より、名古屋開催委員会へ何の相談もなく、けいはんな大会が発表され、東海ブロックで名古屋大会をサポートしていたメンバーは戸惑った。これに対し大橋代表理事より、中止決定後オンライン大会の開催を検討していましたが、特にサッカーからオンサイトでの大会開催の要望があり、サッカー単独開催、WLのみの開催等を理事会にて検討した。場所、費用、日程等すべてを同時進行で行ったため、名古屋市事務局には報告していましたが、けいはんな大会と名古屋大会の開催委員会、実行委員会と別になるため、名古屋市から名古屋大会の実行委員会メンバーに連絡をしてもらうべきであったと経緯の説明がなされた。

④埼玉ブロック長・玉水亘氏より、NLサッカービギナーズにおいて順位ミスが起こり、当初2位だったチームが7位になった事案について、結果として順位は受け入れたが、HP掲載まで非常に時間を要し、また5月になって順位変更の連絡があり、子供達にも精神的ダメージがあった。これに対

し大橋理事より、再確認とGWを挟んだため連絡が遅れたが、順位の変更はせざるを得なかった。例年のオンサイト開催であれば、集計から表彰式までの約2時間で再確認をすることができたが、本大会では競技を直前まで実施したこと、撤収時間が迫っていたことから、十分な確認時間が取れなかった。2023年名古屋大会では例年どおりの確認時間が取れるとの説明がなされた。玉水氏より、来年度からは結果発表の体制が改善されることを望むとの要望がなされた。

⑤中島理事より、オンステージの順位変更について説明がなされた。技術委員長が同意書の不備対応に追われたこと、パドックとステージが離れており十分な情報共有が難しかったこと、コロナ陽性者が出たことにより急きょオンライン審査を実施したこと、マイクトラブル等により、複数の人員が問題解決に奔走したことによる集計ミスであったとの説明がなされた。人的リソースが不足していたのが原因でもあるため、次回より出来るだけ多くのスタッフを出して頂きたいとのことであった。

・茨城ブロック長・設楽信二氏より、現場には行けなかったが、発表後に順位が下がり、子供達はショックを受けた。突然オンライン参加が認められ、話を聞いていなかったこともあり戸惑った。順位変更について、メンターへ説明するとの回答があり、順位が下がったチームに対する配慮が足りなかったように思うとの意見がなされた。Slackに意見書を上げるので確認頂きたいとの要望がなされた。

・中島理事より、オンライン審査については、現場でメンター様にお集まり頂き了承を得た。説明については、複数回メンター様に説明をし、メンター様からチームにご説明頂くことになった。表彰対象が3位までのところ、今回は4位に順位が下がったチームにも賞状を授与した。

・設楽氏より、メンターからは説明が足りなかったと聞いているので、納得しているかどうかは定かではない。採点確認がうまくいかなかったのなら、大会終了後の発表でもよかったのではないかと。また、点数を口頭で伝えたとのことですが、今後は紙に記録を残す等の対策をされてはどうかとの意見がなされた。

・中島理事より、今後は集計ミスが無いような体制を考えたいとの回答がなされ、大橋代表理事からは、なるべくチームから1名はスタッフ登録をお願いしたいとの要望がなされた。

⑥森重理事より、ボランティアスタッフの事故について、発生状況、問題点、再発防止の説明がなされた。大橋代表理事より、けいはんな大会では保険をかけ、看護師にも常駐頂き迅速に対応頂いた。今後も安全対策の強化をしていきたいとの意見がなされた。

(2) 2023名古屋大会について

大橋代表理事より、開催委員会と実行委員会を立上げ、イベントの規制が緩和されることを見込んで一般来場者を入れ、観客席も設ける方向で話を進めているとの報告がなされた。水野専務理事より、今回の反省点をふまえ、よりよい大会が行えるよう進めていきたいとの発言がなされた。

(3) 名古屋大会以降の会場について

大橋代表理事より、例年では大会開催の2年前には開催都市を決定する必要があるが、2024年大会開催に立候補する都市が現段階では未定ですが、開催に関心のある自治体に対し打診を検討中との説明がなされた。

(4) その他

①大橋代表理事より、2022年の活動状況について、各ブロックからの報告を求めた。

●東北ブロック長・高橋忠氏より、過去2年間はオンサイトで大会を見送っていたが、本年度は例年通りの大会を実施予定。11月、12月にノード、1月にブロック大会開催を予定しており、年末までにはブロック大会のエントリー完了の見込み。

●関東ブロック長・富永一利氏より、神奈川ノード大会11/19、20、千葉ノード大会11/27を予定しており、ブロック大会は1/8、9に開催予定。

●埼玉ブロック長・玉水亘氏より、12月にノード、1月にブロック大会を開催予定。エントリーは11月末に締め切る予定のため、12月末までにブロックでのエントリー数の把握可能。

●茨城ブロック長・設楽信二氏より、例年どおりノード大会は11/23だが、12月、1月にずれる可能性もある。会場はまだ確保していない。

●静岡ブロック長・川上誠氏より、ノード大会は12月、ブロック大会は1月に開催予定。日本リーグの参加資格について、2023年名古屋大会から年齢制限が中学生以下になるで間違いはないかとの問いに対し、森重理事より、ご理解の通りで問題ないとの回答がなされた。

●東海ブロック長・山田吉孝氏より、分散開催を予定しているが、各競技共に12月中にブロック大会を開催する予定。オンステージ技術委員長の梅田氏より、オンステージは1月頃になるかもしれないとの発言がなされた。

山田吉孝氏より、NLに一度でも参加した選手は、以降NLに出場できないという変更について、意見を求めた。東海ブロックでは、この変更により多くのビギナーズのチームがけいはんな大会参加を辞退した。京滋奈ブロック長（サッカー技術委員長）吉本氏より、各ブロック長には各チームに連絡するよう伝達した。その際、ブロック長から何ら意見はなかったため、進めさせて頂いたとの意見がなされた。

●岐阜ブロック長・宮崎倫明氏より、ノード大会は12月中、ブロック大会は1月初旬で分散大会を検討中。競技運営指針はいつごろ公開される予定かとの質問がなされた。森重理事より、原案を準備中だが、ルールの翻訳作業で少し遅れがでており、今月末頃までに公開できるよう準備中との回答がなされた。

●石川ブロック長・出村公成氏より、参加人数は減少している。1月下旬にノード、ブロック大会を開催予定。

●関西ブロック長・西田好光氏より、ノード、ブロック大会共に日程と会場を調整中。参加数は年末までに出し、大会は年明けに開催予定。

●京滋奈ブロック長・吉本光希氏より、ノード大会は12月、ブロック大会は1月前半ごろに開催予定。会場未定。エントリーは12月中に終了予定。

●阪神ブロック長・島谷太氏より、10/29に体験教室を開催予定。例年どおり、ノード大会は1月、ブロック大会は1月末から2月に開催予定。

●岡山ブロック長・澤山博幸氏より、倉敷ノード大会は11/20、岡山ノード大会は11/27、ブロック大会は12/18に開催予定。11月中にエントリー数が確定する予定。

●広島ブロック長・山野真一氏欠席のため森重理事より、大会開催場所は検討が必要、12月中には出場チーム数を確定できる予定。今年は300名程の体験会を実施したが、大会への参加に繋がっていない。

●四国ブロック長・樋川直人氏より、11月～12月ノード大会、1月下旬にブロック大会の予定。1月始めにはエントリー数が確定予定。

●九州副ブロック長・山村宏仁氏より、ノード大会は11月中、ブロック大会は1月に開催予定。12月中に参加数を確定。福岡のチーム数が減少しており、メンターの参加も厳しい。

●沖縄ブロック長・今井俊二氏より、ノード大会は11～12月中、ブロック大会は1/7開催予定。

●兵庫ブロック長・玉島琢巳氏欠席のため事務局が代読：兵庫ブロック大会は12月25日実施予定。午前中でビギナーズ・オープン・レスキュー。午後にはライトウエイトの競技を行い、会場内の人数調整を行い密にならないようにする。会場が大変広いので、保護者を入れて観戦しても密にならず、常に換気を行うことで、主催の養父市様からも許可を頂いている。また、その時期になれば規制緩和が進む事も考えられますので、現状の方向で開催は可能。また、コロナ禍で、「出場したい選手がいても大会が開催されない」ということは、ロボカップジュニアへの不信感を持たれ、近い将来に参加者が低迷する原因となることが考えられるため、感染防止策をとりつつ強力に開催を進めて行きたいと考える。

大橋代表理事より、ノード、ブロック大会は実施されるが、体験会等が実施できないためチーム数が減少する問題は見受けられるとの意見がなされた。

②茨城ブロック長・設楽氏より、NLにレスキューメイズが新設されると思うが、コースはどのように準備されますかとの問いに対し、埼玉ブロック長・玉水氏より、埼玉ブロックからは1チーム参加予定です。Facebookに製作手順や金額を公開しているので閲覧くださいとの発言がなされた。森重理事より、技術委員会でも情報共有できるようにするとの発言がなされた。

③中島理事より、サッカーNLのフィールドについて、WLと同じサイズのフィールドが導入されるが、小学生に対してWLのフィールドを床おきにして使用したところ、フィールド上に乗らずにロボットをセンターサークル内に置くことができないことを、写真を示し説明がなされた。フィールドを台の上に置けば、なおさら届かなくなるので、何か対策を講じる必要があるのではとの意見がなされた。これに対しサッカー技術委員長・吉本氏は、写真と情報をSlackで共有して欲しいとの要望があった。

④森重理事よりレスキューの新体制について説明がなされた。NLレスキューにメイズを新設することとなった。迷路、探査を中心としており、Lineのロボットを活用することも可能。また、WLのRescue SimulationがWebots-Erebusになった。CoSpaceは世界大会の公式リーグではなくなるが、RCAPでは継続されるため、ジャパンオープンではWLで引続き競技を行う。NLの参加資格は中学生以下になるが、暫定措置としてNLレスキューメイズのみ、2023年の名古屋大会では高校生の参加も容認するか否か検討中。

⑤大橋代表理事より、Slackがプロタイプになり、上限250名まで無料で使用できるようになったとの報告がなされた。

⑥九州副ブロック長・山村氏より、日本リーグの参加資格について、参加者が引越し等でブロックを変更した場合、どのようなチェック体制になっているかとの質問がなされた。水野専務理事より、現状は自己申告。過去に参加者の番号登録も検討したが、費用や管理の点から実現しなかったとの説明がなされた。大橋代表理事より、不正が発覚した場合は、順位発表後であっても成績は取消すとの説明がなされた。

⑦中島理事より、ジャパンオープンのエントリー締切が直前だと各技術委員の準備が大変なので、エントリーを早めることは出来るかとの問いに対し、九州副ブロック長・山村氏は、遠方からの参加になるので、エントリーは早い方が宿や交通機関の予約が早くに出来てよいとの意見がなされた。また、京滋奈ブロック長・吉本氏より、枠が返上された場合、再配分に時間はかかるが通常1割程度と考えている。本来、2月前半にブロック大会が終了していれば返上枠の確定が2月中に出来るので、理事会から積極的に働きかけて欲しいとの要望がなされた。